

カナダ 穀物

カナダ小麦局ニュースレター

2005年第1号

2004年度の 収穫概況



収穫は9月の第一週に始まりましたが、北部の穀倉地帯で降り続いた雨と、作物の成熟の遅れによって作業の進展が遅れました。

2004年度は西部カナダの生産者にとってかなり苦しい自然条件が重なりました。成長期の冷たい天候のため収穫が平年より遅れ、高品質の春小麦、デュラムおよび大麦の供給量減少という結果を招きました。最上位の二つの等級に格付けされる春小麦とデュラムの収穫量はここ10年余で最も低くなることが予想されます。春小麦の三分の一未満がカナダ・ウェスタン・レッド・スプリング(CWRS)小麦の上位二等級の標準に入ると予測されています。

昨年の秋、穀物の品質に最も影響を与えたのは、2004年8月20日に早くも霜が降りたことでした。この霜は西部カナダ耕作地の約三分の一に及び、その全域にわたって収穫量の減少と等級の低下をもたらしました。

収穫は9月の第一週に始まりましたが、北部の穀倉地帯で降り続いた雨と、作物の成熟の遅れによって作業の進展が遅れました。9月第三週までに収穫された作物は全体の10%に過ぎず、平年より三週間近く遅れたものとなりました。9月下旬と10月の最初の二週間は暖かい乾燥した天候がプレーリー全域をおおったため状況が好転しました。収穫は10月20日までに90%終了しました。10月下旬の雨と雪で収穫作業は中断せざるを得ませんでしたが、11月に乾燥した暖かい天候となったため収穫を完了することができました。北部アルバータおよびサスカチュワン州では、湿った天候のため収穫できずに終わる作物もあります。

カナダ統計局の推定するところでは、西部カナダ産小麦の総生産高は2,390万トン、春小麦の生産高は1,810万トン、デュラム小麦490万トン、大麦は1,230万トンとなっています。全ての推定生産高は昨年を大幅に超えるもので、これはもう少しで記録的といえるほどの収穫があったためです。

2004年度の高収穫量により、タンパク質の含有率はCWRSとデュラム両方とも昨年の含有率および5年間の平均をかなり下回るものとなりました。成長期の冷たい天候が作物へのストレスを最小限に抑えたため、昨年より1%以上低いタンパク質含有率となりました。■





良いアイデア



お気に入りのレストランで食べ切れなかったものをお持ち帰りになりたいですか？ 近い将来、小麦に包んで持ち帰ることができるようになるかもしれません。

今、小麦デンプンを使った環境にやさしい使い捨て容器の開発が研究されています。

最近まで、ポリスチレンのお持ち帰り容器は石油系の原料で作られており、最終的には世界中どこでも埋立地に捨てられています。この容器は分解するのが遅く、環境の重荷の一つとなっています。

小麦デンプンで作られた容器の試作品は、プラスチック製の従兄弟と同じように軽い、漏れない、そして便利なのが証明されています。しかし、小麦デンプン製の方はゴミ箱行きとなった後、わずか数週間で分解することができます。

デビッド岩浅

2004年度ベスト同窓生に

CWB東京ジェネラルマネージャー、デビッド岩浅は出身大学より特別な評価を受けました。

岩浅は国際貿易および財務における業績と海外でカナダを代表する者としてのたゆみない努力が高く評価され、カナダ・アルバータ州レスブリッジ大学の2004年度の傑出した同窓生に選ばれました。

岩浅はジェネラルマネージャーとして、1997年よりCWBの日本における最高責任者の職にあります。

岩浅はアルバータ州レイモンドに近い農場で育ちました。1967年から1970年まで日本に住んでいましたが、アルバータ州に戻り1972年にレスブリッジ大学で経済学学士号を取得しました。卒業時にグレート・ディスタインクションを受賞し、また学長研究奨学金を授与されました。



1972年から日本の京都大学で勉強した後、カナダに戻り1975年に修士号を取得しました。CWB入社前、カナダ連邦政府財務省、米州開発銀行、経済協力開発機構 (OECD)、および世界銀行に勤務しました。また、東京のカナダ大使館に勤務したこともあります。

エイドリアン・ミーズナーCWB社長兼最高経営責任者は岩浅の西部カナダ生産者のため献身的に業務に取り組んでいることを称賛します。

「彼は日本のお客様がたにとっても尊敬されており、日本でのビジネスを成功に導いています。」とミーズナーは語っています。「デビッドはまた韓国市場でのビジネスの拡大にも貢献しており、カナダの国際進出のために広く活躍しています。」■

エイドリアン・ミーズナーCWB社長兼最高経営責任者は
岩浅の西部カナダ生産者のため献身的
に業務に取り組んでいることを称賛します。

CWB北京事務所 開設10周年を祝う

これは単に事務所が大きくなったことを祝賀するだけのものではありません。

西部カナダと中国穀物油糧食料輸入輸出公社 (COFCO) の間に長年培われた友情に基づいた国際貿易ということが、中国北京で2004年9月に開催された祝賀会の中心テーマでした。このイベントは北京事務所の開設10周年を記念して行われました。

CWBは1961年に初めて西部カナダ産の小麦をCOFCOに販売しました。以来、1億2千万トンを超えるカナダ産穀物が中国に輸出されました。

CWBを代表してエイドリアン・ミーズナー (Adrian Measner : CWB社長兼最高経営責任者)、ワード・ワイゼンセル (Ward Weisensel : 最高業務責任

者)、ダレル・ブシュック (Darrell Bushuk : アジア太平洋担当シニア・マーケティングマネージャー)および石海光(Haiguang Shi : CWB北京ジェネラルマネージャー)が出席しました。

祝賀会でのスピーチでミーズナーはこう述べています。「中国の経済は世界で最も急速に発展している経済の一つです。当社が最初にCOFCOと取引をして以来、私たち二つの国の間に友情の橋が懸けられました。この橋は穀物という基盤の上に構築されたものです。」

会長周明臣 (Zhou Mingchen) 氏、社長劉福春 (Liu Fuchun) 氏を始めCOFCOからもご来賓いただきました。■



CWBを代表して(左から右へ):エイドリアン・ミーズナー、ダレル・ブシュック、石海光、ワード・ワイゼンセル。

超音波のパン

超音波は医療に使われるものと通常考えられますが、現在製パン産業への使用が研究されています。

カナダのマニトバ州ウィニペグ市にあるマニトバ大学で、低周波の超音波技術をパン生地およびベーカリー最終製品の製造へ応用するための研究が進められています。

超音波はトランスデューサーと呼ばれる発信機から発信される人間には聞き取ることのできない音波です。この音波は物体を通して扇状に広がって行きます。そして、密度の高いものにぶつくと跳ね返り、それがコンピューターで処理されて映像に表されます。

物体の中に物を入れたり、傷つけたりしなくてすむという超音波の特性は、小麦粉、製パンの材料やパン生地の品質や特性を測定するのに理想的です。

製パンは使用される小麦粉の品質に左右される複雑な製造過程を経て作られます。小麦粉の品質は成長と収穫の条件に従って常に変動する小麦の品質に

よって決まります。このことは製パン業者にとって最終製品の品質の予測を難しくする要因となっており、新しいパン生地ごとにその出来上がりをテストしなくてはならぬため、生産の遅れとコスト高を招いています。

超音波がそれを解決する方法であることが証明されるかもしれません。パンが製造工程を進んでいる間、製造ラインをストップすることなく、パンの中で何が起きているかを観察することができます。

この技術によってパン生地とベーカリー製品の製造業者はこれまで以上に価値ある最高の製品を作り、消費者にさらにご満足いただけるようになるかもしれません。

この研究プロジェクトは業界のほか、カナダ自然科学工学研究会議 (Natural Sciences and Engineering Research Council)



による大学と業界間の交流および技術商業化を促進するプログラムの支援を受けています。

業界からの参加団体にはCWB、カナダ国際穀物研究所 (CIGI)、ジェネラル・ミルズ株式会社 (General Mills Inc.)、ウェストン・ベーカリーズ株式会社 (Weston Bakeries Ltd.)、AIC フラワー・サービス・ディビジョン (AIC Flour Service Division)、アカトリス株式会社 (Acatis Inc.)、ダニスコUSA株式会社 (Danisco USA Inc.) およびグリフィス・ラボラトリーズ (Griffith Laboratories) などが含まれています。■

職員 動向



エイドリアン・ミーズナー (Adrian Measner : CWB社長兼最高経営責任者) は2004年7月中国北京の中国備蓄穀物管理総公司 (Sinograin) を訪問、同社副社長潘洪亮 (Pan Hongliang) 氏より記念品の贈呈を受けた。



祝賀晩餐会でCOFCO関係者とともにCWB北京事務所開設10周年を祝うCWB代表者。



日本製粉協会会員が2004年9月カナダ・マニトバ州ウィニペグ市のCWB本部を訪問した。

後列 (左から右へ) : 田中富男氏 (昭産産業株式会社製粉部長)、高岡裕明氏 (日東製粉株式会社生産技術部長)、三宅一嘉氏 (三宅製粉株式会社社長)、重田勉氏 (製粉協会専務理事)、福田清成氏 (セントラル製粉株式会社社長)。

前列 (左から右へ) : 廣瀬讓氏 (近畿製粉株式会社社長)、坂田康朗氏 (日清製粉株式会社生産本部グループリーダー)、堀内俊文氏 (日本製粉株式会社業務課長)、デビッド岩浅 (David Iwaasa : CWB東京ジェネラルマネージャー)。



CWB職員はCWB北京事務所開設10周年を記念する祝賀晩餐会で中国の穀物業界を代表する方々と会見。

左から右へ: ダレル・ブッシュック (Darrell Bushuk : CWBアジア太平洋担当シニア・マーケティングマネージャー)、エイドリアン・ミーズナー (Adrian Measner : CWB社長兼最高経営責任者)、Chen Xiwen氏 (中国経済発展協会副会長) と、石海光 (Haiguang Shi : CWB北京ジェネラルマネージャー)。



CWB北京事務所開設10周年を祝って乾杯。

『カナダ穀物』は、カナダ小麦局 (CWB) 発行の出版物です。カナダの穀物販売制度や、カナダ西部の小麦・大麦販売に影響を与えるCWBの試みやその他要因などを、アジア太平洋地域のパートナーにお知らせしています。

読者からの質問または意見は下記までお送りください。

Linda Deger, 編集担当, The Canadian Wheat Board, P.O. Box 816 Station Main, Winnipeg, Manitoba, Canada, R3C 2P5
電話 : (204) 983-8620, ファックス : (204) 983-4678, linda_deger@cwbc.ca